

## 【認知症対応型共同生活介護用】

## 1. 評価報告概要表

作成日 平成21年 9月 1日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0591100045
法人名	株式会社メデカジャパン
事業所名	たかのすケアセンターそよ風
所在地	秋田県北秋田市米代町 5 - 4 (電話) 0186 - 60 - 1371
評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団
所在地	秋田市御所野下堤 5 丁目 1 番地の 1
訪問調査日	平成 21年 8月 20日

【情報提供票より】(平成21年7月31日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	10 人 常勤 8人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.4人

## (2) 建物概要

建物構造	準耐火構造物	造り
	2 階建ての	2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000 円	その他の経費(月額)	水道光熱費10,700円, 管理費15,000円	
敷 金	(有)( 70,000 円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	550 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり		円	

## (4) 利用者の概要(7月31日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護 1	1名	要介護 2	2名		
要介護 3	5名	要介護 4	1名		
要介護 5	要支援 2				
年齢	平均 89, 2 歳	最低	81 歳	最高	96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 北秋中央病院
---------	-------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、隣接して大型スーパーやレストランがあり、買い物や散歩、外食が気軽にできる立地条件のよい市街地にある。ディサービスや高齢者住宅が併設されている複合事業所の2階に位置しており、風通しや採光がよくホーム全体がとても清潔である。また事業所の多機能性を活かして、栄養士によるバランスの良い献立作成、機能訓練、機械浴利用、大きな行事への取り組みなど、楽しみながら安心して暮らせる体制づくりを行っている。管理者はじめ職員は、適切な介護計画の立案、3カ月ごとのモニタリングの実施、きめ細かな日常の工夫と支援、書類の整備、地域との結びつきのための努力等々、全般に優れた取り組みを行っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題は特になし。利用者への日々の支援、職員研修、支援の記録等、前回同様良く行われている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員とも自己評価の意義をよく理解しており、管理者は今年度の自己評価と外部評価の項目が変更になっていることについて、経緯説明後全員で取り組んだ。その過程の中で、今後行っていきたいことなどを明確にすることができている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、ご家族、民生委員、自治会等の参加で、2ヶ月に1度定期的に開催されている。この会議がきっかけで、事業所に煙感知器を設置したり、今後利用者の楽しみに繋がりそうな情報をいただいたり、ご家族の思いを聞くことができたりと、会議の結果を事業所の運営や日々の生活向上につなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ご家族へは毎月、健康状態や生活の状況、金銭管理の状況等を知らせ、ご家族と事業所との結びつきに役立っている。苦情の対応については、苦情相談窓口を設置しているほか、事業所以外にも相談の受付機関があることを説明、掲示している。どんな小さなことにも誠実に対応しており、苦情に対する事業所の真摯な姿勢を確認することが出来た。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の行事である供養盆踊り、米代川河川敷の花火大会、鷹巣祭典、もちっこ祭り等に積極的に参加し、地域との交流を図っている。特にもちっこ祭りの出店には、利用者の手芸作品などを出品し、楽しみに繋げている。また事業所で発行している「そよ風新聞」の町内回覧や各戸配布、職員の地域清掃への参加等、地域との連携づくりに地道な努力を続けている。

## 2. 評価報告書

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.理念に基づく運営</b>					
<b>1.理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	当ホームは、「この地域で その人が その人らしく生活できるよう 支援していく」という、グループホームとしての明確な理念を作り上げている。このほかに全国の系列事業所共通の「そよ風憲章」を持っており、介護サービスの基本方針や品質方針が示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、事業所全体の朝の会で唱和しているほか、事業所の見やすい場所へ掲示したり、またミーティング時に振り返ったりと、常に職員が意識できるよう継続的な取り組みを行っている。職員は「そよ風憲章」を身につけて、折にふれ理念・基本方針の確認を行っている。		
<b>2.地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事である供養盆踊り、米代川河川敷の花火大会、鷹巣祭典、もちっこ祭り等に積極的に参加している。特にもちっこ祭りの出店には、利用者の手芸作品などを出品して、地域の方々との積極的な交流を図っており、入居している方の楽しみに繋げている。		事業所で毎月発行している「そよ風新聞」を各町内会長にお願いして町内で回覧してもらったり、近隣の各戸に配布したりと、地域の理解を得るための地道な努力を続けている。また職員も年2回の早朝缶拾いに参加して、地域に溶け込むきっかけとなるよう努めている。
<b>3.理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、今年度の自己評価及び外部評価の項目が昨年度から変更になっていることについて、ミーティングで経緯を説明した後、職員全員で自己評価を行った。その過程の中で、今後取り組んでいきたいことなどを明確にすることが出来ている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は、家族会、民生委員、地域の自治会、行政委員等の参加で、2ヶ月に1度定期的開催されている。この会議がきっかけで、事業所に煙感知器を設置したり、今後利用者の楽しみに繋がりそうな情報をいただいたりなど、会議の機能を日々の活動に十分に活かしている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>利用者の平均年齢は現在89歳と、高齢化が著しい。高齢化に伴って重度化の進行、さらに医療の必要性も増してきており、付随して起きるさまざまな問題について、市町村の担当者と連絡を取り合い助言を受けている。</p>		
<b>4.理念を实践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月ご家族に、ご本人の健康状態や生活の状況を「入居記録」と「そよ風新聞」でわかりやすく報告している。併せて金銭管理をしている方の出納帳の写しとレシートも送付している。「入居記録」の中のご本人の写真は、生活の一コマを生き生きと切り取った素晴らしいものであった。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口を設置しているほか、事業所以外にも苦情の受付機関があることを、説明や掲示で知らせている。苦情までは至らなかった事柄(ご本人の茶碗を割ったりしたこと等)についても、苦情として取り上げており、事業所としての真摯な姿勢をうかがうことが出来た。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>事業所内の異動等はないが、退職に伴う新規採用が2名あった。採用の際には、体験ボランティアで適性をみたり、利用者馴染んでもらったりしている。職員の動向については、毎月のお便りでご家族にも知らせ、戸惑うことのないよう努めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5.人材の育成と支援</b>					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	事業所全体の勉強会のほか、グループホーム独自の勉強会も毎月開催している。外部研修への参加にも積極的で、認知症を中心とした研修の成果は、研修報告や勉強会といった形で他の職員へ伝達している。		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	事業所は全国グループホーム協議会に入会しており、最新の情報を得ている。秋田県グループホーム協議会については非会員であるが、総会や研修会等には参加している。同系列のグループホームとは、内部研修等を通して、交流や情報交換を行っている。		
<b>1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	利用の開始に当たり、事業所での生活に強い不安を感じている方には、まずショートステイを利用して少しずつなじんでいただく方法を取っている。また職員の訪問も多くして、つながりを作りながら自然な形で事業所の生活に入れるよう支援している。		
<b>2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	職員は、利用者の出来ることや得意なことを十分に把握し、料理作りやプランターの水やり等を積極的に行ってもらっている。ベランダのプランターで収穫したナスや二十日大根等の漬物は、利用者の大きな楽しみとなっている。職員は「人生の大先輩としていろいろなことを教えてもらっています」と、事業所での日々について話していた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員は、日常のさりげない場面でご本人の思いを聞き出す工夫をしている。特に入浴など、職員と1対1になる場面では、リラックスした状態で利用者自身の隠れた思いなどを聞くことが出来ている。外出については、ご本人の希望やご家族からの情報を得て、それぞれの望む外出の実現に繋げている。</p>		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員は介護計画立案前に、日常の生活に対する希望やこれからのことなど、ご本人の意向を十分に聞き取って、カンファレンスに臨み、介護計画に反映している。</p>		<p>介護計画の作成に当たっては、事前の利用者からの聞き取り、職員間の話し合い等、とても良く行われている。ご家族の希望・要望も聞き取っているので、今後はそれらをより明確に記載する欄を整備していくことも望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画は、3ヶ月に1度定期的にモニタリングを行い、見直しを実施している。入院や退院など状態の変化があった場合は、モニタリングを1ヶ月に1度とし、変化に応じた素早い対応が出来るよう努めている。</p>		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>当事業所は、グループホームのほかに、デイサービス、高齢者住宅なども併設されており、多機能性に配慮されている。機能訓練のために、デイサービスの平行棒を利用したり、状況に応じて機械浴を使用したりと、複合事業所としての多機能性をフルに活かしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前に通院していたかかりつけ医に、入居後もできるだけ受診できるよう努めている。事業所の協力医院やかかりつけ医以外の通院は、ご家族にお願いする場合もある。通院の初日にはご家族にも同伴してもらい、ご本人の状態の共有に努めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者が、現在よりも重度化した時や終末期を迎えたときの対応について、年に1回ご本人、ご家族にアンケート形式で意向調査を実施している。必要が生じた時は、意向調査の結果を対応の指針として、ご家族と連携を図っている。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1.その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所では、入居されている方のプライバシーを尊重し、「そよ風新聞」の写真掲載等についても、同意を得られた方のみとしている。また、個人情報提供同意書等、さまざまな同意書をご本人、ご家族からいただいております。事業所として最大限プライバシーの保護に努めている姿勢がうかがわれた。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訪問調査の日は、ホールで利用者と職員が和気あいあいと昼食の「だまこもち」の準備をしていた。その傍らでは、居室でゆっくりと過ごされている方もおり、利用者一人の暮らし方のペース、好みの活動等を尊重していることが確認できた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の献立は、利用者の希望を把握した上、栄養士がバランスよく作成している。また食事の買い物や準備、片付けなどの仕事は、利用者の方々と職員が協力して行っている。訪問調査の際、昼食でいただいた「だまこもち」は大層美味であった。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴前には利用者の健康チェックを行って状態を確認してから、それぞれの好みの湯温や好みの時間帯で入浴をしてもらっている。ゆず湯や菖蒲湯で季節感を感じてもらったり等、入浴を楽しめるようにするための工夫をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者一番の楽しみは「手作りのおやつ」ということで、事業所内に自然に出来た役割分担のもと、皆で一緒にどら焼きやおはぎなどを作っている。そのほかにも、時にはレストランで外食をしたり、希望の出前をとったりするなど、生活に変化と潤いを持たせる工夫をしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	手作りおやつと共に利用者人気なのは「ドライブ」ということで、特に四季折々の花を見るための外出計画を立てている。ドライブのほかにも、隣のスーパーまでの買い物や散歩等、気軽な外出の支援もしている。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	日中は、グループホームの玄関、非常口とも鍵を掛けずに支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	夜間想定訓練も含み、消防訓練は年2回実施している。最近の訓練では、地域の方の参加も要請し、新たに導入した投的消火器(投げ込むだけで瞬時に火が消える)の実演を行って、その威力を確認、またアピールをした。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるような状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康チェックとともに、1日の水分摂取量、食事摂取量、排泄等をこまめに把握し、記録している。また、その把握状況を通じて水分を促したり、おやつメニューを変えたり、個別の外食で食欲を刺激したり等、利用者個別に柔軟な対応を行っている。		
<b>2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームは、複合事業所の2階に位置している。ホーム内はバリアフリー構造となっているほか風通しもよく、掃除も行き届いており、清潔感がある。食事や作業などを行うリビングは広々と明るく、また気軽に休める畳敷きのスペースもあり、利用者が寛げる場となっている。事業所内に置かれている椅子などの調度品も素晴らしく、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口には好みの暖簾が掛けられており、利用者それぞれの目印ともなっている。居室の家具等の私物は、普段から使い慣れたものが持ち込まれている。家族の写真が飾られていたり、好きなものを置いていたり、利用者一人ひとりが自然に過ごされていることが確認できた。		

は、重点項目。